

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

平成25年10月18日

施設名	高知県立文学館	所管課	文化推進課
-----	---------	-----	-------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
施設所在地	高知市丸ノ内1-1-20		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p><建物>延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建 <土地> 4,747㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など <開館時間>午前9時~午後5時 <休館日> 12月27日~1月1日 <主な料金> 常設展 一般350円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 施設利用料 企画展示室 22,640円(1日) ホール 12,200円(全室/1日) 茶室 3,490円(全室/1日)</p>		
職員体制	常勤職員: 5人 契約職員: 12人 合計: 17人		

※職員数は平成24年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(予算)
収入	県支出金	98,103	105,279	107,134
	事業収入	6,725	8,500	5,717
	その他	900	0	1,049
	収入計(a)	105,728	113,779	113,900
支出	事業費	105,314	113,779	113,900
	(うち人件費)	(54,450)	(56,558)	(58,560)
	その他	414	0	0
	支出計(b)	105,728	113,779	113,900
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成23年度(実績)	平成24年度(実績)	前年度比
①年間利用者数(単位:人)	常設展	932 人	1,048 人 + 116人
	企画展	19,004 人	32,449 人 + 13,445人
	計	19,936 人	33,497 人 + 13,561人
	ホール	9,750 人	8,070 人 - 1,680人
	茶室	2,943 人	3,166 人 + 223人
	合計	32,629 人	44,733 人 + 12,104人
<利用実績> 平成24年度は、オリジナル企画展5本、巡回展1本の展覧会を開催し、幅広く文学に親しんでいただく取り組みをした。入館者数は、「なばたとしたか絵本原画展」22,716人が大幅な入館者数増加につながり、昨年度より約1万2千人多い、開館以来最高の年間44,733人となった。			

要求水準 1

「本県ゆかりの文学作家を顕彰し、土佐文学の魅力を伝える」

本県は全国的にも数多くの文学者・文学作家を輩出している。
その顕彰とともに時代背景や人物像も含めて土佐文学の魅力を広く紹介する。

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 開館当初に設定した本県出身またはゆかりの文学作家の顕彰を行うとともに、現在活躍する作家も含めより幅広い土佐文学を紹介する。</p> <p>・常設展示室を定期的に入れ替え、入館者にとって常に変化があることを心がける。</p> <p>・ギャラリートークの実施や展示内容・方法の工夫などにより文学への理解を深め、土佐文学の新たなファンを開拓する。</p>	A	<p>・常設展示をローテーションで入れ替えするのはリピーター増加につながる</p> <p>・展示に工夫が見られる</p> <p>・魅力ある企画も良い</p> <p>・常設展に工夫を凝らしマンネリ化しない努力が伺える</p> <p>・毎週ギャラリートーク(館内解説)を開催するなど、理解促進に努めている</p> <p>・活発に動いている</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 資料を適正に保管し、活用することによって、作家や関係者との信頼関係を築き、館の運営の基盤とする。</p>	B	<p>・作家や関係者とさらに密な信頼関係を望む</p> <p>・今後は収蔵資料庫の増設が望まれる</p> <p>・資料の増加は喜ばしい</p> <p>・研修への参加も積極的に行われている</p> <p>・資料を着実に増やしていることは、信頼関係の証左</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 土佐文学や作家についての研究を進め、企画展の実施と図録等の作成を通じて研究成果を広く公表する。このことにより県内外に文学館の存在を知らせる。</p> <p>・文学研究全体のなかで、高知県立文学館ならではの位置づけを得る。</p> <p>・来館者や土佐文学に関心を寄せる人々からの質問・疑問に専門性をもって対応できる体制とする。</p>	B	<p>・専門性が高くかつ、これを引けば土佐文学あるいはその作家が十分理解できるという図録がほしい</p> <p>・大原富枝生誕100年で出身地本山町での中高生対象に行った企画(学芸員による大原さんの青春時代の紹介)は良い</p> <p>・企画展とタイアップしたイベントに工夫が見られる</p> <p>・学芸員の研究も熱心に行われている</p> <p>・要求水準はクリアできている</p> <p>・土佐文学をしっかり伝える意欲が感じられる</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 土佐文学に関する情報を常に発信し、高知県の文学館をアピールする。</p> <p>・展覧会、広報誌、ホームページをはじめあらゆる手段で文学館の取組みを広報する。</p>	A	<p>・企画展を積極的に展開している</p> <p>・広報に力を入れて工夫が見受けられる</p> <p>・新しい試みや企画など、積極的に広報しようとする姿勢が伺える</p> <p>・様々な工夫をしてPRに努めている結果、入館者も増えてきている</p>

要求水準 2

「県民の文学への関心を高める」

次代を担う子どもたちをはじめとして、多くの県民が文学作品や作家に触れ、文学の愉しさを知り豊かな心を持てるよう、様々な事業を通して取り組む。

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 常設展示や企画展などの展覧会では、様々な年齢層を対象に質の高いものを目指し、常に知的好奇心に触れる企画を実現する。併せて、子どもたちが親しみやすい展示内容や解説、施設面での工夫や、テーマ性をもった展示など入館しやすい環境の整備と維持に努める。</p>	A	<p>・幅広い年齢層を対象としたことを評価</p> <p>・開館以来最も多い入館者を記録した</p> <p>・「なばたとしたか絵本原画展」始め、非常に魅力ある企画展が催され素晴らしかった</p> <p>・新しいファン層も獲得できたと思う</p> <p>・入場者が増えているのは魅力ある展覧会ができているから</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 教育普及事業は現在多彩なプログラムを行っている。引き続き行うとともに、固定化しつつある参加者の掘りおこしを行い、新規の参加者を大幅に増やす。また、文学サークルや研究会など文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を拡げる。</p> <p>・朗読コンクール、文学講座、文学カレッジ、紙芝居の会、朗読フェスティバル等</p>	A	<p>・独特の朗読コンクール等、外との連携を続けている</p> <p>・多彩な教育普及事業を展開している</p> <p>・多彩な展開は歓迎できる</p> <p>・文学初心者～上級者まで、様々な層のニーズに合った独自の取り組みが行われている</p> <p>・プログラムをよく検討し、新規入館者の掘りおこしにつなげている</p>

効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理

評価項目		評価	意見(コメント)
適正な管理運営の確保	社会的責任 ・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況 建物や設備の管理 ・点検・修繕の実績 ・業務委託の状況 危機管理 ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修	B	・学芸員の研修も続けているようだ ・専門性をさらに高めてもらいたい ・古い建物を点検をしながら使用し、危機管理を行っている ・冷静に分析しながら経営努力を行っている跡が見られる ・収入増、経費削減の意識を持って取り組んでいる ・館の性格上、大幅な入館増は難しいとは思いますが、不断の努力工夫を続けて欲しい ・危機管理にもしっかり意識を向けている
利用者サービスの維持向上	サービス向上への取組 ・自己点検・評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取組		
利用実績	利用実績の状況 ・利用状況の分析		
収支の状況	経営努力 ・収入増加の取組 ・経費削減の取組		

		評価	意見(コメント)
総合評価		A	・向上途中であるが、よく努力している ・時代の流れのなかで努力・工夫していることを認める。その積み重ねが大きな前進につながる ・若年層の入館者増は企画の良さが伺える ・この一年で最も変わったのは文学館ではないか ・企画展が当たるかどうかはやってみないとわからないが、様々な角度からの分析をし、市場のニーズをとらえ、この一年、よく頑張ってきたと思う ・地道な努力で入館者を増やしている ・好立地を生かした入館誘導にさらに工夫して欲しい ・目標、目的意識がしっかりしていて、館で働く人で共有できており、事業に対する館長や学芸員の積極的な姿勢が伺える
県の評価		A	・常設展、年6回の企画展、複数の講師による文学カレッジ、児童生徒文学作品朗読コンクール、ボランティアによる紙芝居普及活動などの実施により、本県ゆかりの文学作家を顕彰し、土佐文学の魅力を広める。県民の文学への関心を高めるといふ館の役割が十分果たされている。 ・あらゆる広報チャンネルの活用、また学校や近隣地域とも連携し、入館者増の取組がなされている。さらにそれらの取組をアンケート調査などで検証するなど、PDCAサイクルで業務改善がなされ入館者増につなげていることは評価できる。

【評価の目安】

- A：仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B：おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C：仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D：管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この「4. 県の要求水準に対する評価」は、外部の有識者等で構成する委員会による評価及び意見と、それらをもとに県が評価及び意見を付したものです。

平成24年度 事業報告書

平成24年度は、企画展として、オリジナル5本、巡回展1本の展覧会を開催した。企業や市町村の協力による展覧会や人々の五感に訴える展覧会など6本を開催し、幅広く文学に親しんでいただく取り組みを行った。

常設展では、収蔵資料を中心に定期的に、紹介作家の入替を行い、高知の文学者と作品の魅力をわかりやすく紹介した。企画コーナーでは、没後100年を迎えた田岡嶺雲の作品とその生涯を紹介。

寺田寅彦記念室ミニ企画コーナーでは、ドイツ ゲッティンゲン留学時代の寅彦を書簡や書籍を通して紹介した。宮尾登美子の世界の部屋では、宮尾登美子の親鸞賞受賞作『錦』の世界を紹介した。

企画展に合わせた記念講演会として、加賀乙彦氏をはじめ、白井進氏、斎藤淳夫氏、高島麻子氏らによる講演を行った。昨年に引き続き土佐史談会との共催で「土佐の文化 十講座」を開催した。

教育普及事業では、文学カレッジや専門講座や紙芝居ボランティア公演などをはじめとして、内容の充実に努めた。児童生徒文学作品朗読コンクール、朗読の会、朗読フェスティバルなど、朗読を通して文学を身近に感じていただける取り組みをした。紙芝居ボランティア公演については、昨年に引き続き児童クラブ等を中心に講演を行った。市民講座、文学学校などへの職員の派遣については、要請が多く、昨年に比べ4倍になっている。新規の事業としては「市原麟一郎・よみがえれ土佐民話」展の巡回展を開催した。高知市民図書館、日高村図書館、四万十市立図書館、香南市野市図書館、四万十町立美術館などで開催し、市原麟一郎さんも精力的に各地で講演や紙芝居を行い、好評を博した。

館報「藤並の森」を年4回発行、年間イベントガイドの発行やホームページ、ブログなどの内容を充実し、随時更新を行うことで、最新の情報提供が出来るように努めた。また、より多くの人々に文学館に親しんでいただくため、マスコットキャラクターを全国募集し、しおり、筆太(びった)が決定した。

調査研究を広く紹介するために24年4月からの自主企画展「宮尾登美子の『錦』と龍村平藏の『美』展」の図録や「文学×Media Art展」の作品解説なども作成した。また、新聞への連続掲載や同人誌への研究発表などを行い、25年度も継続中である。

また、当年度は開館15年の節目を迎え、15周年記念誌「高知の文学」を作成した。

ア 文学館利用状況

種別	入館者(人)	料金(円)	備考
主催	常設展	1,048	229,110
	企画展	32,449	6,500,240
	計	33,497	6,729,350
ホール	8,070	556,220	利用日数：268(196)日
茶室	3,166	243,620	利用日数：107(24)日
企画展示室	0	0	
合計	44,733	7,529,190	

※備考()内は、使用料免除及び当館主催の件数

イ 展覧会

(ア) 企画展

企画展名	開催期間	日数	観覧者(人)
宮尾登美子の『錦』と龍村平藏の「美」展	H24. 4. 10 (火) ~ H24. 5. 27 (日)	48	2,453
川と文学	H24. 6. 9 (土) ~ H24. 7. 16 (月)	38	948
なばたとしたか絵本原画展 ~ナバーランドへようこそ~	H24. 7. 28 (土) ~ H24. 9. 17 (月)	52	22,716
「大原富枝生誕100年 ~書くことは生きること」展	H24. 9. 24 (月) ~ H24. 11. 11 (日)	49	1,377
大正ロマンの画家 高島華宵の世界	H24. 11. 24 (土) ~ H25. 1. 27 (日)	59	2,749
文学・Media Art展 紀貫之からライトノベルまで	H25. 2. 9 (土) ~ H25. 3. 31 (日) (開催はH25. 4. 7まで)	51	2,206
合 計		297	32,449

(イ) 常設展

a. テーマ展示

区 分	テ ー マ 内 容	会 期
寺田寅彦ミニコーナー	明治43年、ドイツ ゲッティンゲン留学時代を、高辻玲子著『ゲッティンゲンの余光』を通して紹介した。	H24. 4. 1 (日) ~ H25. 3. 31 (日)
宮尾登美子の世界	平成20年、宮尾登美子さん82歳の時に刊行した『錦』を取り上げ、作品の魅力をご紹介した。	H24. 4. 1 (日) ~ H25. 3. 31 (日)
企画コーナー	没後100年を迎える田岡嶺雲の展示を行った。裁断された発禁本など貴重な資料とともに作品を通して紹介した。	H24. 4. 1 (日) ~ H25. 3. 25(月)

ウ 教育普及事業

事業名	会 期	回数	参加者(人)
文学カレッジ	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	9	647
朗読の会	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	11	475
☆児童生徒文学作品朗読コンクール	H24. 8. 16 (木) ~H24. 11. 11 (日)	4	517
記念講演会(企画展関連)	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	6	752
ギャラリートーク	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)		1,275
語りと紙芝居の会	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	12	265

☆おはなしキャラバン	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	89	3,700
朗読フェスティバル	H25. 2. 16 (土)	1	120
土佐近世文学研究会	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	46	517
土佐の文化 十講座	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	10	493
出張朗読会	H24. 6. 24 (日) ・ 7. 1 (日) 9. 16 (日) ・ 9. 22 (土) ・ 9. 26 (水) ・ 10. 6 (土) ・ 11. 1 (木) ・ 11. 8 (木) ・ 11. 15 (木) 二カ所 ・ 11. 17 (土) ・ 11. 18 (日) ・ 11. 22 (木) ・ H25. 2. 24 (日)	14	621
職員による講演	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)	19	1845
朗読講習会	H24. 9. 3 ・ 10. 1 ・ 11. 5 ・ 12. 3 ・ H25. 1. 7 ・ 2. 4 ・ 3. 4(全月)	7	78
その他企画展関連イベント	H24. 4. 1 (日) ~H25. 3. 31 (日)		4,288
		計	15,593

エ こども対象事業 (再掲)

事業名	実施時期	回数	参加者(人)	備考
児童生徒文学作品 朗読コンクール	H24. 8. 16 (木) ・ 20 (月) ・ 23 (木)	地区審査3	517	
	H24. 11. 11 (日)	県審査1		
おはなしキャラバン	H24. 4. 1 (日) ~ H25. 3. 31 (日)	89	3,700	